学校通信

令和８年　９月３０日
東京都立葛飾盲学校長
竹内　大吾
（ 第７号 ）

「中学部移動教室と学習発表会について」

校長　竹内　大吾

朝夕の風に秋の気配が感じられるようになりました。学校では、10 月 31 日(土)に行われる学習発表会に向けて、幼児・児童・生徒の練習にも熱が入ってきております。

さて、9 月 24 日(木)、25 日(金)は中学部第 2 学年の移動教室があり、日本科学未来館や夢の島熱帯植物園に行ってきました。日本科学未来館では「大南極展」のイベントが催されており、本物の南極の氷を触る体験、ブリザード体験、南極に関するクイズミッションシート等をとおして、南極観測隊や地球の自然について学んできました。

ところで、なぜ日本の南極観測隊は、はるか約 14,000㎞離れた極寒の南極の地で、気象や大気、地球、宇宙、生物等について、様々な観測や研究を行っているのでしょうか。南極は、地球の環境の変化を知るための重要な場所のひとつです。南極の氷や大気等を長い年月にわたって調べることで、地球の過去や現在起きている変化を捉え未来を考える手がかりを得ることができます。南極の遠い地を知ることは私たちが暮らす今の環境を知ることにつながっていきます。

そして、南極観測で大切なのが「続けていく」ことと「協力する」ことです。南極観測では１回の遠征では分からなくても、そのデータを次の観測隊に引き継いでいき、長い時間をかけて積み重ねていく中で初めて見えてくるものがあります。また、研究者だけでなく、設備、通信、動植物、調理等の様々な専門家がそれぞれの専門性を持ち寄って力を合わせることで、厳しい環境の中でも観測を続けることができます。

これらのことは、学校での学びにもよく似てくると思います。すぐに成果が見えることではなくても、目標をもち、色々な人たちと関わりながら、続けていくことの大切さがあるのではないのでしょうか。

学習発表会では、当日の立派な姿だけではなく、その舞台の後ろにもある日々の積み重ねや幼児・児童・生徒同士のつながりにも思いを馳せていただければと思います。

南極の氷の下に、長い地球の歴史が刻まれているように、学習発表会の一日の姿の裏側にも日々、子供たちが積み重ねてきた学びの時間があります。

ぜひ、そうした時間も含めた今年の学習発表会を、保護者の皆様と一緒に味わえることを楽しみにしております。

「総合防災訓練」

９月４日（金）に総合防災訓練を行いました。川の氾濫による水害を想定した下校訓練では、子供たちが先生の話をよく聞いて、落ち着いて下校の準備を行っていました。保護者による引き取りも円滑に進み、全員無事下校することができました。保護者の皆様、お忙しい中引き取り訓練に御協力くださり、誠にありがとうございました。子供たちが下校した後は、大規模災害時の帰宅支援ステーションを設置する訓練、子供や教職員が学校に泊まることを想定した就寝部屋設置訓練、非常用食料を準備する訓練を、同時進行で一斉に行いました。教職員は皆「自分は今何をすべきか」を瞬時に考え、判断をし、素早く行動することができました。１１時４０分から１６時５０分までの訓練でしたが、総合防災訓練にふさわしい充実した活動となりました。今後も、子供たちの安全・安心を一番に考え、準備を整えていきます。

（文責：生活指導部主任　小松﨑　洋介）